

西普天間キャンパスにおいて新病院の外来診療がスタートしました

令和7年1月、琉球大学病院は、宜野湾市の米軍基地跡地に整備を進めている西普天間キャンパスに移転し、沖縄健康医療拠点の中核として活動をスタートいたしました。

外来診療初日となった令和7年1月6日（月）は、新たな電子カルテシステムの運用が開始された日でもありましたが、予約数を旧病院の通常の外来患者数である1,000人の約四分の一当たる253人に制限し、駐車場、病院エントランス、エレベーターホールなどに患者さんを案内する看護師や職員を臨時的に配置したことや、システム業者から多くのオンサイトサポート要員が立ち会ったこと等で、大きな混乱なく診療を終えることができました。

また、3階総合受付前に設置した、通院支援アプリの説明やアプリのインストールサポートを行うブースには多くの患者さんが訪れ、アプリをインストールすることで診察待ちの順番がスマートフォンに通知されるなどの便利機能や、アプリのインストール方法についての説明を受けていました。通院支援アプリについては、[こちら](#)でご確認ください。

新病院では、これまで以上に、他の医療機関との連携を深めつつ、沖縄県唯一の特定機能病院として、高度な医療や先進的な医療を安全に提供し、全職員が一致団結して地域の医療水準の向上のために取り組んでまいります。

【参考】

移転事業について

<https://r-iten.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

沖縄健康医療推進基金について

<https://r-iten.skr.u-ryukyu.ac.jp/kikin/>

(外観、総合受付、2Fエントランス、外来フロア)

